

放送番組審議会議事録

- 1 開催年月日 平成 25 年 6 月 14 日〔金〕19:30～20:30
- 2 開催場所 奄美市名瀬金久町 4 番 3 号 2 階 あまみエフエム会議室 にて
- 3 出席委員 委員総数 7 名 出席委員数 4 名 欠席委員数 3 名

出席委員の氏名

中村 修／濱田 洋一郎／柳 ちおり／岩崎 勇登

欠席委員の氏名

深田 剛／重田 朱美／山田 梨香

放送事業者側出席者名

丸田 泰史／中原 優子／沖元 眞実／上野 紋／渡 武志／渡 陽子／

柿岡 朱香／川原 知恵／宮田 愛

4 議題

審議(「英会話の OVA」について)

5 議事の概要

- (1) 欠席者のお知らせ
- (2) 審議(『英会話の OVA』について)
- (3) 次回の審議議題について

6 審議内容

- (1) 深田委員、重田委員、山田委員の欠席の報告がされた。
- (2) 番組内容の審議(「英会話の OVA」)

中村副委員長

みなさんこんにちは。深田委員がお休みということですので、私のほうで代わりに進行させていただきます。今日の審議対象となる番組は『英会話の OVA』。こちらを事務局のほうからご説明をお願いします。

一放送局 中原

はい。開局当初からある番組です。島口と英語の表現を一緒に覚えようというコーナーです。おばあに島口を教えてもらうということで。ただですね、もともとラジオ番組で英会話の番組とかありますけど、それだけじゃ面白くないので、ローカルスタンダードとグローバルスタンダードを、島口と英語を天秤にかけて同じようなカッコよさというか、同じくらい価値があるっていうのを伝えたいなっていうので、英語と島口ということでスタートしました。もともと週代わりでテーマがあるのですが、一昨年くらいから土曜日だけ特別版ということで、『島口どうくどうく』というコーナーをつくっています。

ここはリスナーさんとの交流の場であったり、ヤッホー直人兄という方からハガキが毎週届くので、そのコーナーがありまして、あとはメインでは島ユムタ遊びですね。島口を使っていろいろ遊ぶことで、若い人たちにももっと島口が浸透するんじゃないかなということで、土曜日は私とオペレーターさん、今は渡と二人で『島口どうくどうく』をお届けしています。ジャンルもいろいろありまして、リスナーさんがつくったジャンルとかもあるので

すが、島口だじゃれ、島口川柳、島口なぞかけ、島口なぞなぞ、島口おしゃれとか。島口と英語がだじゃれになってるものを「島口おしゃれ」と言ったり。そういうものを作っています。後ほど時間があれば素敵な作品が沢山あるので、ちょっと紹介したいと思いますが、今日はいろんなご意見頂ければと思います。宜しくお願いします。

中村副委員長

ありがとうございます。

あらかじめ今回の件について6つほどテーマを決めてお話を聞きたいというのがありますので、順番に一人一人行きたいと思います。じゃあ、柳さんのほうからいいですか。

柳委員

こんばんは。まず、「お尋ねしたいポイント」について。OVAの島口について難易度は、私としては難易度は2ぐらい。両親が戸口(龍郷町)で、方言は昔から生活の中で飛び交ってるんですけど、やっぱり聴いたこと無い方言があったり、イントネーションが変わることでちょっと意味が分からなかったりということがあるので、難易度は2という感じです。ちなみに高校生の息子にも聴いてもらったのですが、全く分からないということでした。「うなぐ(方言訳:女性)」とか「くわ(方言訳:子供)」とかそういう単語は分かるんですけど、ほかの単語はもう、全く分からないということです。

あと、島口についてもっと解説があったほうがいいのか、ということについて、島以外の方が聴くことも多いと思うので、解説はあったほうがいいのかと思うし、多少あってもいいのかなという気もします。放送時間について、私は(現在の時間帯で)いいんじゃないかなと思っています。あと、「ヌサレ(方言訳:運命、宿命)」の意味は初めて知りました。私は「ヌサレ」という言葉を聞いたのも初めてです。で、「に一ふえーで一びる」は沖縄の方言の意味とか、なかなか知る機会が無かったので、奄美とは違う表現をとりあげるとはいいことだと思います。島ユムタ普及、遊びの普及について、私は『島口どうくどう』はかなり好きで、それで運転しながら笑ってるんですけど、応募はもっと沢山してほしいんですが、やっぱり難しいですね。私も何度か考えているんですよ、だけどなかなか思いつかなくて、、でもこれはかなりお気に入りです。以上です。

濱田委員

はい、次は僕ですね。僕は笠利町の出身で、両親が同じ集落ということもあって、共通語のような、夫婦でしゃべってる会話をずっと聴いていたので、ヒヤリングに関しては相当自信があるんですが、まあOVAもしゃべってることはほとんど分かるね。おばあは「あっしょ(方言訳:龍郷町^{あしとく}芦徳)」?

一放送局 中原

笠利の“かんによこ”、“神の子”。初代おばあは、“あっしょ”です。

濱田委員

ああ、だいぶ近いな。うち“土浜”だから。“土浜”、“用安”、“神の子”(集落の並ぶ順番)、、、だから聴きやすいんだね。

そういうことでわん(方言訳:僕)的には程よい感じかなと。最終的には「英語ではどう言うの?」ということで、そこでも少し解説するような、「こういいます」っていうのをやって、コーナーが終わるので。でも、柳委員がおっしゃったように、もう少し過剰なぐらいやってもいいのかなという気もします。で、このコーナーが、当初から私

が一番好きなので、いろんなバリエーションというか、膨らましたり、そして、ウチナー口でもすればいいんじゃないかかって思いはしたけどね。

一放送局 中原

毎週テーマを決めなきゃいけないので、意外とテーマ探しが難しくて。たまたま沖縄に出張に行ったので、比べるのもいいなと思って。似てるところとか、違うところ、そういうのでまたちよつと文化的な比較をするという。

濱田委員

笠利出身のわんとしてはやっぱり馴染みのある言葉、イントネーションなのだけど、結局、放送エリアの表現って違うじゃない、島ユムタの。だから“ヌサレ”もあんまり分かんかったし。“ヌサレ”ってうちの両親あんま使わなかったし。だから放送エリアの言葉だったりとか、瀬戸内なんかイントネーションがめっちゃ違うがな。なので、そのへんが混ざっていても面白いのかな。それを、おばあに喜界の言葉なんかで、「これ分かる？」とか「分かんや〜」とか言ってそんなのとかがあればいいのかなとか、、まあ今回ちよつと予習不足だったもんですから、あんまり発言しないように静かにしようと思ったんですが、参加委員の方が少ないので、『島口どうくどうく』も面白いですね。私もいろいろネタを仕入れて、中原優子さんには披露したことがあります。

一放送局 中原

もともと『島口どうくどうく』、最初の作品ですよ。どうくどうくがちゃんとコーナーになる前にだじゃれを作ってくれた、それを聞いて、こういうの面白いなって思った、それがきっかけとなった、洋一郎兄が、

濱田委員

クイズ形式とかね、、「めっちゃ歌が上手いんだけど、本当に“きがまらい”世界の歌姫って誰か知ってる？ “きがまらいやキャリー”」・・・(一同爆笑)・・・お後がよろしいようで。

一放送局 中原

それは、、星2つかなー。あとあれですよ、ある有名なハリウッド女優・・・

濱田委員

ああ、喜界の特産品のメロンが大好きなハリウッド女優がいるわけ。きゃめろんディアス。
一人で見ると、おならがしたくなる花、、(答:チューリップ)

一放送局 中原

作品披露の場になっちゃった。(一同笑)

岩崎委員

優子さんのこれ(英会話のOVA)は、車とかの時に立ち止まるんですよ。だから本当に普通のリスナーかもしれないんですけど、そこで立ち止まるような企画っていうか、それだけの魅力あるものだなとは思いますが。僕も聴いてるので、あえて(サンプル)CDを頂くまでもなかったのかなっていう、ちよつと(CDを聞くことができなかった)言い訳的なことも言ってますけど、、

中原優子が勝手なことやってるなど。(おばあの)孫娘か知らないですけど、その関係でやってるなどという

ここで、こういう、スタッフがコーディネーターというか、そこに関わるスタッフでありますけども、自分が(インタビュアーとして)関わって、で、最終の結論まで持っていくという、こういうラジオ番組っていうのは、すごいいいというか、あまみエフエムに対してもすごい貢献度といいますか、スタッフもいろんな気を使わなくていいというか、だからそういう意味では、パーソナリティーがこれだけ企画に関わってされてるのは無いなっていうところで、やっぱりこの中原優子さんの偉大さっていうので、、本当にゴールデン番組みたいなコーナーですね。だからこれに対して何か言うとか、どうして欲しいんじゃないかと、パーソナリティーの思いとかそういうのを尊重して、どんどん発展させて頂きたい番組であって、これは第三者からどうこう言うようなことではないのかなと思いますね。で、今日もなんかやりましたよね、空耳、、

—放送局 中原 『空耳英語』ですね。

岩崎委員

はい。それもやっていましたけども、やっぱり次の試みとか、それは現場が感じることもあるのですが、それもまた優子さんが自分でしゃばっていった企画ではないですか？

—放送局 中原 はい。企画は全部自分で、テーマも自分で決めてるので、、

岩崎委員

ですよね。だから現状に浸るんじゃなくて、やっぱりパーソナリティーが「こういう番組じゃいけない」ってことで常に関わるような、責任感とか、そういうのを持ってやってるところだからこそ、受け入れられてると思うんですけど、今後もですね、すごい進化するような番組でもあると思うんですよね。だからそういう意味ではやっぱりスタッフの方もパーソナリティーとかに気を使うんじゃないかと、もっと企画を立てて、ゴールデン番組を目指すというか、常に進化するような番組を目指すような、各スタッフが関わるような、そういうところでやったら、あまみエフエムは常に、島民に受け入れられるんじゃないかな。逆に、ちょっとなんかここで上手くいってるからってことで、同じことをやってたら結局飽きられてしまいますし、企業もそうですが、環境に対応して進化するような企業が生き残るって、ダーウィンの進化論でそういうことが言われていますけど、そういうふうにしてあまみエフエムも、リスナーもそうですけど、そこに関わるスタッフが、その場の、その収録のなかでの雰囲気、自己満足じゃなくて、第三者的にそれを感じ取って、そこでじゃあ次はどうすべきかっていうのをやるべきじゃないかなって思います。これは番組審議会とかやるんじゃないかと、スタッフ同士で感じ取るようなところであって、僕なんかそんな言うようなあれでもないですし、まあ「(意見を)言われる番組というのは、逆にちょっと自己満足的なところで終わっているところじゃないかな」と思います。

この番組(英会話のOVA)は本当に第三者的に考えているところが多いなって思ってますね。

中村副委員長

深い発言ありがとうございました。

今日ご欠席の山田さんからも意見をもらっていますが、まず私の意見から。

開局当初からある看板番組で、ケチつけるところは無いのですが、最初のころは(島口が)ぜんぜん上手くなかったよね。田舎のほうでは、なんかエフエムで変な言葉使ってるぞみたいなのがあって、最初はああおかしななって思ってたけど、だんだん中原さんが進化してきて、何よりもその、方言を上手くしゃべれるうんぬんよりも、

「方言を伝えていこう」という情熱のほうが勝ってしまって、すごく伝わってくるものがあるのじゃないかと。それで、なによりも、始まった頃からパターンが決まっていて、パターンがはっきりしているからこそ、聴きやすい、安心して聴ける。

そして“に一ふえで一びる”ってなんか関係ないのにそっちいくのも、パターンがあるからこそそんな遊びも出来るのであって、そうじゃなかったら「何言ってるの」ってなるのだろうけど、確立したパターンっていうのは強みだになって、いろいろ遊べるなって思いますね。

それと、自分が、どうかなって思うのをあえて言わせてもらえば、惠原先生の話をするときに、予め「惠原先生の話をしてます」って言ってするんだけど惠原先生のほうは結構中身が深くて、素人には結構難しいんだけど、それを中原さんは予め勉強してるから知ってる話を、それを知らないおばあに対して、話を進めようとするわけじゃない。おそらくテレビとかだったら、予め仕組んで、こういうふうに話を持って行って、おばあに話をさせて、「そういえば」って感じで、「惠原先生の本にも載ってましたよ」って感じにするんだけど、あえて中原さんはそれをせずにおばあに聞く、おばあは「何それ？」みたいな感じで。その流れはすごくシンプルでいいのだけど、こっちだけ答えを先に持って、おばあに言わそうってするのはちょっと無理があるのでは、流れ的にね。おばあが言って、「ああそう言えば」って言えるんだけど、「この言葉知ってますか」って言うのは、おばあが言った言葉に対して、ああーって聞くのも面白いんだけど、こっちから逆におばあに言わせようってするのは見えてくるものがいやらしいかなと思って。

まあ今日、“ヌサレ”もそうなんだけど、中身が深い話が多いので、自分もその本読むんだけど、一回じゃよく分からない、何回も読み返してこれ何だっけみたいな。今日の“ヌサレ”だって2回も3回も読んでるのに、もう一回、引っ張り出して72ページ見て、そうだったなーっていうくらいで、こう、惠原先生の話が。惠原先生の話はちょっと一般のリスナーには濃いのがいっぱいあるけど、でもすごくタメになる話なので、この辺をやってもらえたらなっていう感じです。「島口どうくどうく」はみんながさっきから言ってるように、楽しく楽しく聴いています。今、5月から聴いてないんですけど、また聞きます。

一放送局 中原

“英語じゃぬちいゆりよ(方言訳:英語では何て言うの)”って言ってるのは、うちの本当のおばあちゃん、OVAの初代のおばあなんです。なので、あそこ出てくるのはみんな家族なんです。初代で96のときに一緒に番組を始めたので、一年目で亡くなっちゃったので、今の二代目のおばあに変わってるんですけど、実は身内で出来てます。

岩崎委員

中原さんがされているのはいいのですが、じゃあ、ここで病気になったり、なんかしたときにこの番組をどうやるのか、前録りとかあるのかもしれないですけど、結構やっぱりいろんな方に人気を博してる番組だから、そういうのなんかも組織内でやるべきですよ。ちょっと一人にまかせっきりにするのではなく。

一放送局 中原

そうですね。一応この番組担当っていうかたちで、それぞれみんなやってはいるんですけど。まあちょっと相手がおばあで、親戚関係だったりとか、それまでの人間関係であったりするので、たしかに難しいところではありますが、、

一放送局 丸田

そうですね、今後の展開としてその先々のことも予測しながら、また番組としてOVAのかたちは残しつつって
いうところまで、まあ常にシーンに合わせて少しずつコーナーが変化していくっていうのは他の番組にも言え
ることなんですけど、それで、次世代育成じゃないですけど、次にバトンタッチするっていうかたちも今から多
分、絶対出てくるとは思いますね。そのへんで具体的なかたちとしてはまだ皆さんにお伝えは出来ないんで
すけど、今動き始めているところではあります。

一放送局 中原

またその、おばあ自身が元気でいてくれるからいいんですけど、そういう意味ではおばあだけに頼らずに、
出来る体勢も、もうちょっと発掘していけたら本当はいいなってのはありますね。たくさんいらっしゃるとは思う
んですけど、なかなかここまで持ってくるのが実際、、、ですね。

濱田委員

またあのキャラをよく見つけましたね。ものすごいタレント性が高いよね。

一放送局 中原

やっぱり、普通の、ただ島口が喋れるお年寄りとは違うと思うんですよね。おばあ自身が。その面白さもです
し、やっぱりそれまでの生きてきた環境もあると思うんですけど、私は島口を習ってるけれども、すごい島の価
値観とか、生き方みたいな、島での生活感みたいなのが、おばあとの話の中からすごく学ぶことが多くて、自
然と共存してる場所とか、やっぱり自分が聞いていてすごく面白いとか、勉強なると思うので、島口だけじ
ゃなくて、そういうところをおばあを通して伝えたいな、というのはすごくありますね。

岩崎委員

僕も思うんですけど、こういうコーナーを通じて、タレント性を発掘して、CMなんかもノーギャラですよ。
オーシャンブロードバンドなんか(のラジオCMにも)出られてますけども、そういう番組を通して、次の目玉な
人物とかそういう方を発掘しておきながら、やっぱりエフエムとしては収益事業も必要なので、ただ番組を作
ってる意識じゃなくして、次のタレント性を持つてる人を発掘するような、そういう企画作りとか、そういったことをし
ていったらもっと発展性がありますよね。

ただ、その番組でスポンサーを募ってやるのじゃなくして、それで、次の(人材が)出て、(その人材を)CM
に起用して、それが当たるっていったらあれですけど、そしたらまたそれでスポンサーがついてっていう、そう
いうのがプラスの考えっていか、逆にあえてスター性を求めて、島のですよ、そういうのの企画とかを増やし
ていってもいいんじゃないかって思いますね。

一放送局 中原

2月、3月に琉球大学の島口研究会があって、それに発表で行って来たんですけど、そのときに琉大の
先生がこっちに一回来てくださったので、こっちでやってる、いろいろな活動、英会話のOVAの内容とかも見
てもらったんですけど、『島口どうくどうく』に出てる「ヤッホー直人兄」っていう兄が、毎週ハガキに自分の半
生を綴った、俺の高校時代なになにとかっていうのを島口で全部書いてきてくださるんですけど、毎週頂くの
で、もうコーナー化したんですよ。そしたらそれを見た琉大の先生がこれは本になると。沖縄なんかではこんな

のみんな本にして売れてるよって。これは絶対置いといたほうがいいよって言われて、それから記念に置きますけど。でも本当にあんまりそういう価値っていうか、頂いているありがたさはあるんですけど、それを本にしようとかそれを本当に求める人がいるかなって。考えたことも無かったのですけれども、沖縄なんかでも、そういったものはかなりあるっていうのを聞いて、もうちょっと、みんなの意識が高くなれば、そういうものを求める声とかも出てくるのかなーとは思いますが。それこそ「島口どうくどうく」は3年目ですけど、150作品くらい頂いて、島のクイズ本じゃないですけど、だじゃれ本みたいなのか、出来るんじゃないかなって。

濱田委員

なると思うよ。だって昔の深夜放送だとか必ず本になってたもんね。オールナイト日本なんかでも、コーナーコーナー聴いって“かやくご飯”って本になっとなって、聴いても面白かったけど読んでも面白いって。

ー放送局 中原

その前に“島口ラジオ体操”っていうのを作ったんですけど、そういうのと同じに、「英会話のOVA」の中でしている企画がちょっと違ってたけどまた出てくると、一つものになるというか、聴いて流れるだけじゃなくて、一つこま留まって、みんなの手元に残るのもいいなとは思っています。

濱田委員

おばあはおいくつなの？

ー放送局 中原

90です。

岩崎委員

こんな優れたコンテンツを持っていますから、そういう意味では何を収益しようとか、この事業を支える事業とかもそうですけど、何か派生するような、おっしゃるように本とか何かをやったり考えたほうがいいんじゃないか、また本が出ることであまみエフエムのPRになりますし、それがまたエフエムを支える事業になり得ることもありますよね、一回ちょっとチャレンジしても、、、

ー放送局 中原

私はカルタを考えてたんですけど、(他の人に)出されてしまったので、、、まあ出来れば島口と英語のカルタ、そうすれば子供たちがどっちも分かるみたいな。島口だけじゃなくて英語も覚えられるみたいなのがいいなって思ってたんですけど。

中村副委員長

ここで、欠席の山田委員からご意見が来ていますので、私の方から読ませて頂きます。

山田委員(中村副委員長代読)

OVAの島口については難易度2、もっと解説があったほうが良いのではないかとこの点では、今のままでいいと思う。提案などあればという点では、もう少し日常会話で使えるような言葉をテーマにしてほしい。例えば、中原さんに限らず、それぞれのパーソナリティーが知らない先でどういう読みかなと実際に思った言葉をテー

マにするとか、それが島外であっても島々の違いがそこで分かったり、もっと日常に即して且つバラエティーに富むのではないか。また、パーソナリティーが直接感じる事なので、若い世代の共感もより、得られると思う。

時間帯について、特に気になったことはないので今のままでいいと思う。

普及についての提案、島ユムタを聴き取ることは出来ても使うことは出来ない。さらに、目上の人に使用いたくてもどう言えばいいのか分からない。それが50代以下の島ユムタの普及のネックになっている。そんな目上の人に使える方言をパッと紹介するようなコーナーを増やして欲しい。それがひいては島ユムタ、遊びの普及に繋がるのではないのでしょうか。職場でもそんなことを話しています。その他改善等、英会話のOVAへの意見ではないが番組への提案として、群島復帰60周年でもあるし、土地の呼び名、由来、歴史に触れる番組などをやってはどうか。例えば宇検村の“やけうちの宿”はどうしてそういう名前なのかなどいろんな呼び名を解説してくれる5分番組のようなものがあつたらいいなど。伝統や歴史に触れることも出来るので、例えば笠利は誰々先生、宇検は誰々など、詳しい方に出て頂いて、なぜその地名なのか、地形に由来するものなのか、歴史に由来するものなのかそういうことを聴けたらいいと思う。60周年の節目としていいと思う。以上です。

一放送局 中原

前回の山田委員のご意見を、議事録で読ませて頂いて、確かに敬い言葉っていうのがすごく難しく、もともと私自身が島口使えなかったっていうのもあるんですけど、表現の中で敬いをやるとキリが無くて、そのときそのときでやっぱり疑問系の表現のときは敬いにしますけど、そのほかの一般的な表現であれば、普通に自分が使う言葉として使うっていうのを自分の中では区切りというか、そこら辺は割り切って、紹介してるんですけど、ただ、その敬い言葉を伝えるのは私がおばあに話すときの話し方だと思うんですよね、だからそれを心がけてはいるんですけど、やっぱり後で聴いてみて、ここはあれだったなって自分で気づいたりすることもあるって、だから自分がもっとそれを上手く伝えることが出来れば、聴いてて、ああおばあにこう伝えればいいんだとかいうのが(わかるのかなと思います)。ちょっとごちなくとも、出来るだけおばあに対しては敬いの言葉を使うのを心がけたいなって、確かに思いました。ただ、まだ学習中なので、これが正しいと絶対思っていません。いろんな指摘を今も、うけますし、怒られたりもしますけど、それはそれで気づいて言ってくださること、それに気づいてくれたってことがまたいいことだなって、そういうふうに大人の人たちが、喋れる人たちが指摘できるような場を作れているというか、そういう場があるのがまた、ここから大人の人達が「教えらんといかん」って、「あれ間違ってる」っていうような意識がもっと出てきたらいいなっていうのがあります。だから自分がそう思っても聴いてる若い人たちはそれが正しいと思って聴いてしまう危険性があるっていうのは否めないなとは思っています。

濱田委員

確かに敬語は難しいからね。島ユムタを伝える会の人なんか、島ゆむTIME(あまみエフエムのコーナー)でやってる、まあ原稿があつてなわけよや(方言訳:わけだよ)、それを島口になおしてっていうところで、かなり苦労されてるねっていうのはかなり伝わってくるし、なかなか難しいよね、おばあなんかみたいに何が出てくるか分からんし。だからなかなか会話のなかで作っていくのは。

中村副委員長

「島口どうくどうく」のときはすごいサクサク出てくるのにおばあと話すときは、語尾が詰まるよね。

一放送局 中原

やっぱり考えますもんね。「島口どうくどうく」のときはあんまり島口って意識してないので使えるところだけ島口でパーっと喋るんですけど、やっぱりおばあさんと喋ってるときはどうしても出来るだけ全部島口で話したいっていうのと、「この言い方で合ってるんだっけ？」っていうのを頭の中で考えながらなので、やっぱり後で自分で聴いてイントネーションおかしいとか、なんか違っとなってるっていうのは思うことが多いですね。

あとさっきの山田委員の土地の呼び名とか由来っていうのも「英会話の OVA」でも何度かやったことあるんですけど、それこそテーマが一週ごとで違うんですけど、いろんなアプローチがあるなって思ってた、こういうテーマでしてほしいっていう意見とかリクエストとかあれば大変助かります。

岩崎委員

でも、上野さんと渡さんもそうですけど、中原さんが言っばなしでいいのかと。「こちらからも言うことあるよ」と、そういう、なんか反骨精神じゃないですけど、、、ちよつと“おとなしめ”で、まあ先輩から言われたらそれはそうですねじゃなくて、もっと、「いや、それは」っていう、、僕も関係はちよつと分からないですが、、

一放送局

結構みんな言っていますよ。すごいですよ。(一同笑)

岩崎委員

そうなんですか。反発もあるんですか。後輩から。優子さんがすごいからやっぱり後輩の方は言えないところもあるのかなって思ってたんですけど

一放送局 中原

負けないようにがんばります。

濱田委員

看板番組という言葉がありますけど、やっぱりそうだし、岩崎さんがおっしゃたように企画力を高めるといのはこういう場よりは、、、ね。で、ラジオってそのときそのときの環境に合わしていかないと成り立たないものだろうと思うから、そのなかでずっと看板番組として、やってきてそのときの話題とかを毎週毎週決めてやってるんで、ずっと続けて欲しいし、そのときには 3 代目のおばあのこと考えらんといかんし、つなぎで英会話の“ウジ”も探しまい(方言訳:さがさなければいけない)じゃない？

岩崎委員

前撮り 20 本くらい撮ってときまいじゃないですかまた。

一放送局

中原がおばあのところへ 2 週に一回行って、2 週分撮るっていうことをしてます。

濱田委員

(おばあが歌う島口の)サザエさんの歌好きだったな。あれ CD にすればいいって言ったのに。

一放送局 中原

長谷川町子博物館に断られました。一応打診というか、日テレ?にも電話してみたんですが、難しいということで、、島ラジオ体操の CD を作ったときにカップリングでどうかなと思ってちょっと検討したんですけど、、なかなかそういうところが難しいなというところはありますね。「島ロどくどく」は作品を出してらっしゃる方がだいたい決まってレギュラー化しているので、出来ればもっといろんな人に作って欲しいと思ってるんですけど。なかなか作品が届かないというのが、ちょっと悩みの種かな、ということですね。職場とかでみんなで出し合って頂ければと思います。

重田委員(急な都合により参加できなかったため審議会終了後に文書にて提出いただいたもの)

以前からなぜ方言と英語バージョンの 2 つの訳を紹介しているのだろうと、単純に思って聴いていましたが趣旨を読んで理解しました。

OVA の島口については、難易度 4 です。私自身あまり方言がわからないため。子供のころから祖母と同居して方言を昔から聴いてはいましたが、使うことはあまりなかったので、4 にしました。番組内では、中原さんの解説で理解できますが、おばあが話してる内容は、聞いたことあるフレーズも沢山ありますが、何を言ってるのか分からないことも、、、。方言はニュアンスでこんな感じかな?と覚えたものも多いので、解説を聞いていると「そーだったんだ!」と聴いていて面白いなと感じるところです。

解説があったほうがいいのか過剰かについて、中原さんの解説はわかりやすいし、普段喋っているようなイントネーションで解説してくれているので、聴きやすいし十分だと思う。テーマについては、番組内で取り上げた方言の使い方の例を会話形式でやるのはどうか。「2人でその方言を使った会話をやる」とか

沖縄のうちなーぐちバージョンはとてもよかったですと思います。沖縄は響きが似た方言があったり、文化的にも近いものがあるので、聴いていてとても面白いなと思いました。各島々(喜界、徳之島、沖永良部)で方言が違うものがあればその方言の、もしくは市町村、集落バージョンをやるのもおもしろいのではないかな。

放送時間帯については、多くの人に聞いてもらえると考え、夕方放送は帰宅中に車で聴く人も多いだろうから良いと思う。個人的には昼の 2 時、3 時、4 時頃に聴く番組という感じがしますね。もしくは午前中。言葉の意味だったり解説をしているので方言のお勉強的な感じで夕方より日中という感じがしますね。

再放送の時間については午前 10 時にラジオを聴けないのですが、先ほども書いたようにお勉強的な番組という感じでいえば適当かと思います。

中村副委員長

では、そちらにお返しします。

一放送局 丸田

はい。次回の審議内容としてみなさん CD をお渡ししていますが、担当の上野のほうからお話させてください。

一放送局 上野

はい。(配布されている用紙の)2 枚目ですね、第 39 回の「みちのしま ザ ワールド」番組趣旨やお尋ねポイントなど書いてありますが、改めてご紹介します。もともとは昨年度の鹿児島県の NPO ネットワーク支援事業の一環で、地域情報発信するときにラジオ番組を活用してもらおう、というケースで作ろうというのがスタート地点

です。

その年度内は2月、3月に2回作っただけで事業は終わったんですけども、せっかくなのでこうやってあまみエフエムとしての群島の問題を群島の人達が自分たちで作るといふかたちで、乗せる機会がこれまでなかったということで今、月に一度、一時間といふかたちでやっております。趣旨は奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島の5つの島に住む島人の皆さんが、電話などで伝えるのではなく、自分たちで番組を作ってしまうといふ、10分番組を5つ並べているオムニバスです。この間、6月9日に5回目を放送したばかりといふ、全くこれからのものです。そういった状況で、出てくださる、もしくは作ってくださる皆さんも番組作りってどうしたらいいのかねっていふ話をしながらなんですけど、まずは率直に、出てくる人達についての雰囲気や取り上げてる話題に興味を持てるか、一般のリスナーの皆さんがどういふ感想をもつか、そこは率直に言って頂けたらと思います。

あとは、結構大きいんですけど、私たちが普段持ち歩いて録音する機材をもっていない人が多いので、島によってはiPhoneで撮ったりとか携帯だけの音声で送ってきたりとかしてます。で、こちらである程度の音質を改善する試みや聴くに耐えうる状況にある程度引き上げることは出来るんですが、もとの録音によるところが多いため、結構音声が他の番組に比べても粗いと思うので、そこも聴いてみて、「いやここまではちょっとなんじゃないの」みたいなことはぜひ教えて頂きたいなと思っております。

もうひとつ、奄美大島編については、今、私が動いてるんですね、今後例えば、大和村の青年団とか笠利の青年団にお願いして10分作ってもらおうかとも考えたりしているのですが、他の4島に比べて規模が大きいため、制作をお願いするのにもいろいろ考えなければと思いつつながら、毎月私が行っている状況です。そのあたりのお知恵ももしありましたら、聴いた感想とともに教えていただけたら嬉しいです。今耕し始めた最初の段階なので、みなさんのいろいろなご意見を頂けたら嬉しいなと思っております。

次回の番組審議会が8月16日金曜日、19:30からに決定し、閉会する。

7 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

次回審議会までに改善に努める

8 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法及び年月日

- ① 自社放送:平成25年7月6日(土曜日)6:00～放送
- ② 書面の備置き:平成25年7月6日(土曜日)から、当該事項を記載した書面(議事録)を当法人事務局へ備置き、聴取者の閲覧希望に対応
- ③ インターネット:平成25年7月6日(土曜日)より当法人インターネットのホームページに掲載

9 その他の参考事項 なし